

鍋倉山・赤倉山スキー報告

1 日目

(コース) 鍋倉山

(日 時) 平成 30 年 1 月 13 日 (土)

(天 候) 晴れ時々曇りのち雪

(参加者) 菊池さん、加藤さん、石橋さん、滝本 (記)

(山行タイム) 登山口 (570m) 9:10－黒倉山鞍部 (1,241m) 12:00－鍋倉山山頂 (1,289m) 12:20-12:50
－1 回目滑走下部 (1,077m) 13:10－鍋倉山山頂 (1,289m) 14:00－森太郎観察 (1760m) 14:40
－登山口 (570m) 16:05

(山行報告)

登山口である温井の集落の除雪最終ポイントに到着した時には、既に 8 台の車が到着しており、我々はその後に駐車をして準備をしていたところ、更に 2 台の車が到着して合計 11 台となりました。道路わきの雪壁は 210 cm 位の高さにまでなっていました。

既に多くの先行者がいるので、基本的にそのトレースに従って登っていきました。

大学の小屋を過ぎて暫く行くと、急斜面 (40 度ほど?) のトラバースが有り、雪崩の跡と 5m ほど下からのトレースもあったので、先行者が滑落したようでした。この辺りは表面から 30cm ほど下に固い弱層があり、そこで雪崩が発生したようす。頭から滑落すると身動きが困難となりそうで、恐る恐る注意しながら通過しました。石橋さんのビンディングが最も危険な場所で外れた時には冷や冷やしましたが、何とか落ち着いて付けることが出来、無事通過することが出来ました。



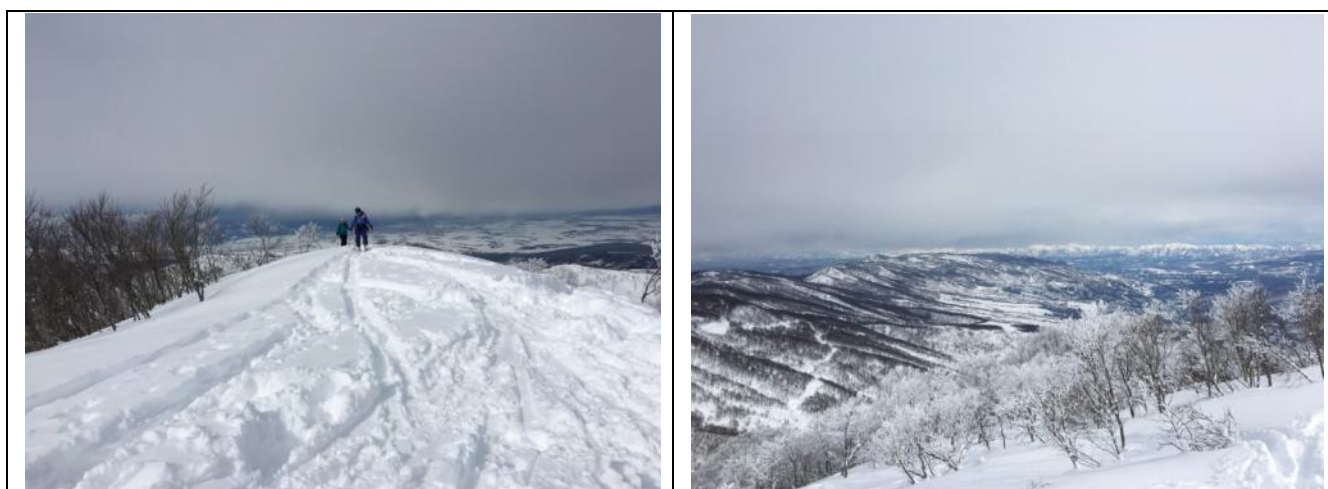
この後もトレースに従い、尾根に取り付いてブナ林の中を徐々に高度を上げていきました。樹林帯の中ではほとんど風はなく快適でしたが、黒倉山鞍部に出ると風が当たるようになり、体感温度が急に下がってきました。鞍部辺りの弱層は 60cm 程度下に有りましたが、先行者の話によるとピットチェックし

たところ、山頂下の急斜面は雪崩の心配は無いとのことで、ひとまず安心しました。



上から滑ってきたシュプールは、再度上に向かうトレースにつながっているものばかりで、山頂直下を何度も滑っている人が多いようでした。ヤマレコの当日の記録を見ると、我々の3時間ほど前に来た人は3回ほど滑走して昼には下山したようでした。

山頂に到着した時には風は少し緩くなり、はやる気持ちを抑えながらエネルギー補給と周りの景色を楽しみました。



我々も2回滑走するつもりで、1回目は山頂から登ってきたトレースに向かって北面を滑走しました。昨シーズンからの待ちに待ったディープパウダーで、初めは恐る恐る慎重に滑って行きましたが、徐々にターンのコツがつかめてきて、楽しく滑走できるようになってきました。

1回目は200m強を滑走して再度山頂まで登り返し、2回目は東面の尾根を登山口に向かって滑走しました。2回目はやや緩斜面で1回目ほどの爽快感は有りませんが、長い距離を楽しむことが出来ました。石橋さんと山スキーに来るのは初めてでしたが、安定した滑りで姿勢も良く、ロッカーのファットで浮遊感を味わいながら気持ちよく滑っているようでした。加藤さんは急斜面の深い雪では手こずっていたようですが、上から下までボーゲンでゆっくりと安定した滑りでした。菊池さんはいつもより長い雄た

けびで、とても気持ちよさそうにターンしていました。

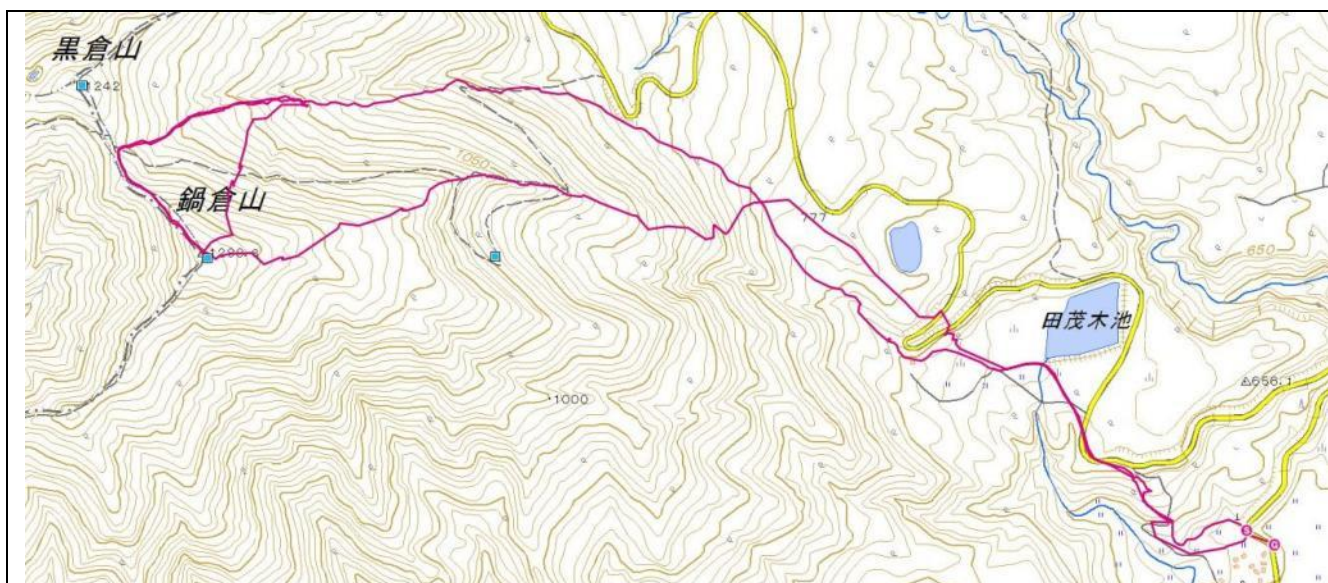
鍋倉山には自然保護活動のシンボルで樹齢 300~400 年と言われている森太郎があり、下りの途中で教えてもらいました。今回は遠くから見たので、その大きさをあまり感じる事が出来なかったのは残念でした。



登山口に近くなると雪質が悪くなり、パウダースノーは徐々に楽しめなくなってきました。また、雪がちらちらと降り始めてやや暗くなり、少し急いで下るようにしました。

滑走を終えて車に戻ると最後の一台になっていました。あまりの気持ちよさに浮かれてゆっくりしすぎたようです。この頃には雪が激しく降り始め、とにかく早く荷物を車に積み込んで定宿となりつつある野尻湖湖畔にあるゲストハウス LAMP に向かいました。LAMP では、チーム福島メンバー 3 人と自己紹介&情報交換会で楽しめました。

GPS ログ



2 日目

(コース) 池の平スキー場～赤倉山

(日 時) 平成 30 年 1 月 14 日 (日)

(天 候) 晴れ時々曇り

(参加者) 菊池さん、加藤さん、石橋さん、滝本 (記)、中田さん (会員外)

(山行タイム) 池の平ゲレンデトップ (1,400m) 9:40－林道(1,590m)10:55－滑走トップ (1,870m)

13:00－林道 (1,570m) 13:50－赤倉観光リゾート下 (720m) 16:00

(山行報告)

前日夕方からの雪が積もり、朝から車の雪おろしから始まりました。道路にも大量の雪が積もっているはずでしたが、既に除雪は終わっており、さすが雪国と感じました。

今日のコースは、池の平スキー場のリフト 2 本を乗り継いだ標高 1,400m から赤倉山に向かって登行し、赤倉ゴルフ場に向かって下るルートです。メンバーは高田在住の菊池さんの山スキー仲間である中田さんを迎えて 5 人です。

ゲレンデトップからの先行者は誰もいなくて、うっすらと残っているトレースを確認しながら交代でラッセルを始めました。初体験となる膝くらいまで埋まるラッセルは非常に厳しいものでした。初めは板のトップが雪に突っ込んで上がらなくなって、力任せに進むとすぐに疲れて交代となっていました。徐々にコツがつかめて少しずつ慣れてきたようです。中田さんはファットスキーで沈み込みが少なく楽に上がっているように見え、交代でラッセルをしているものの、半分くらいは中田さんが頑張っ先行してラッセルをしていただいたような感じでした。



初めはうっすらと見えていたトレースを辿っていましたが、更に薄くなっていったことと、トレースの効果に疑問が出て、トレースが残っているオープン斜面より樹林帯の中の方が良いのではという菊池さんからのアドバイスで樹林帯に入ったところ、沈み込みが格段に少なくなって歩きやすくなりました。

1,590m の林道手前に温泉の源泉？が出ている施設が有りました。



林道に出ると今までの疲れが吹き飛ばすような妙高山の見事な景色が現れました。



林道を過ぎると傾斜はさらに増してきており、深いラッセルに疲労が蓄積されてきます。後方から若いパーティーが追い抜いてラッセル地獄から解放されるだろうと期待していたのですが、全くその気配が無く、最後まで我々だけで登っていくのかとあきらめかけていました。

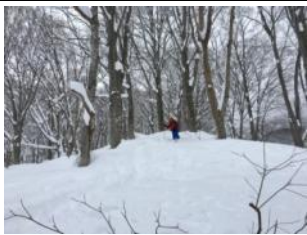
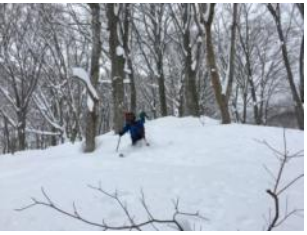
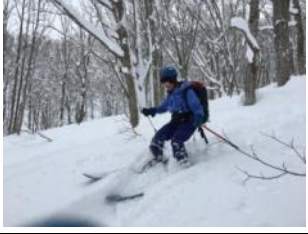
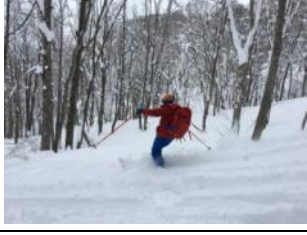
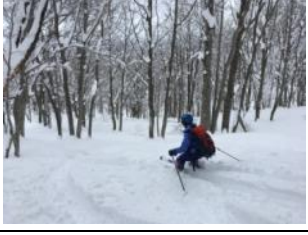
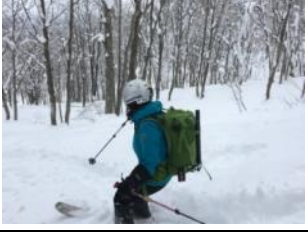
林道から 200m ほど上がったところで、杉ノ原スキー場から入山した 15 名ほどのガイドツアーに出会い、これでラッセル地獄から解放されると喜びました。ところが、そのツアーはすぐに休憩に入り、そこから滑走するということなので、まだラッセル地獄は続くことになりました。既に 12 時を過ぎており、大所帯のツアーでは安全第一に考えて早めに安全で確実なルートで滑走することを選んだのではないかと

と思われます。

斜面が急になってくると、トレースのとり方が重要になってきます。急斜面に突っ込むとキックターンがしにくくなり、更に体力も削られることになるので、下の方から事前にルートを考えておくことが重要だということです。

ここでトラブルが3件たて続けに発生してしまいました。1,800mを超えたところで中田さんのシールが剥がれるトラブルが発生し、付け直しをしようとしたのですがうまくできませんでした。既に13:00近くなってきており、そろそろ下るべき時間であると判断して今回はここを山頂として滑走を楽しむことにしました。行動食と水を取り、滑走の準備に入りましたが、ここで2件目のトラブルが発生。滝本のビンディングトラブルにより、踵が固定されず、滑走モードにすることが出来なくなりました。左右のビンディングを見比べて、突起部分を押しながら踵で踏み込めば何とかできるのではと思い、菊池さんに手伝ってもらってやってみるとなんとか踵を固定できるようになりました。ビンディングが外れると、はめ直すのに厄介なので慎重に滑って行くことにしました。最後の3件目は中田さんのビンディングが歩行モードから滑走モードに変わらなくなってしまったことです。以前に菊池さんが使っていたビンディングのタイプで対処方法も熟知していて、お湯をかけて滑走モードに変えることが出来ました。

ここからが待望のディープパウダー滑走が始まりました。

中田さん	加藤さん	石橋さん	菊池さん
			
			
			
			

急斜面ではないが昨日よりも深いパウダースノーで、最初は力任せにターンをして足に大きな負担がかかっていましたが、昨日からの菊池さん、石橋さんのアドバイスを思い返しながら徐々に無駄な力が抜けた楽しい滑りが出来るようになってきました。

中田さんの滑りはダイナミックな感じで、下から見ると滑走面のオレンジが鮮やかに浮かび上がって見えました。加藤さんは急な斜面が無いため、昨日よりはボーゲンで楽しく滑っているように見えました。

下りのルートは登りと大きく離れず、林道を横切った後はやや北側に向かって白田切川に沿った尾根を滑り下りて行きました。

最後はゴルフ場の方に出る予定でしたが、中田さんがこのコースを良く知っているようで、車道に出るまで川沿いを進んで行ったところ、車道の手前で川に向かって 5m くらいの急坂が有り、そのまま滑ると川に落ちることからちょっとしたスリルが最後まで楽しめました。



最後の難関



バス停到着

車道に出たのが 15:52 で、赤倉から池の平へのバスが 16:00 ということで急いで行き間に合いました。

今シーズンが山スキーを始めて 3 シーズン目になりますが、最初のシーズンは雪不足で不完全燃焼に終わり、2 シーズン目は肩を痛めてしまって残雪期からの参加となり、今シーズンはパウダースノーを目指していて、かなり悪戦苦闘すると覚悟していたのが、思っていた以上に楽にターンが出来るようになっていて楽しく滑ることが出来、この土日は大変楽しい 2 日間となりました。皆さんありがとうございました。

P.S.

山頂でのビンディングトラブルで、ワカンかシールでの下降となっていた場合の事を想像するとぞっとしました。道具は丁寧に扱いましょう。

GPS ログ

